

日二月三

常磐每日新聞

定額一圓(七月五拾日郵政特准)
廣告料五號十二字第一行金五拾錢
日曜祭日の翌日休刊
発行所 常磐毎日新聞社
印刷所 常磐毎日印刷株式会社

廻向に光りあり

真繼 雲山

溪谷に下りたるものはまた登るべき坂道がある頂上に登りつめたものは下らねばならぬ、飛行機が落ちるといふのは空中高く昇つてゐるからであつて大地に即する者の落ちたる例はな

古來英雄の末路の多く慘にして蕭條を極むるは人並以上に高く登つてゐるからであるその高く昇つてやがて釣堀おとしに陥る陰惨失意の状は寧ろ初めよりして昇ることなく下ることなき平垣に比してそも／＼何れか。

遠くセントヘレナの落日に大奈翁の終末を弔ふまでもなく平の清盛を見よ、源頼朝を見よ北條九代を見よ足利十三代を見よ何れか權力者の末路の蕭條ならざる豊公三代にして大阪城頭の露と消えたのは餘りにも痛ましく尊氏の曲賊家康の老翁は一見末路の完きに似たるも後人の臆裡に果たして彼れ等の尊貴さがありや尊氏の賊子たるは論外であり狡奴家康亦た唾棄すべきのみ。

近くは明治以降總理大臣の榮爵を贏ち得しもの十數時に神扱ひにして祭らるゝ

ものは則ち有り、これは後人の儀禮なるのみ彼れ等のエラかりしといふのは力量において常人にすぐれてゐたといふに止まるゆゑその力盡きて倒るゝと共に彼れ等は乃ち亡びて行つた。或るものは兇刃に斃れ然らざるも半夜にして逝く。その

ノート

國旗は門外から見て右側に立てるもの二本組む時は左旗竿の元は右の國旗を内側にする

多く末路の慘たるは已れを本位とする力に生きてゐたからである。力は萬人を克服し得るも萬人の心に生ることは出来ない。力は結局力であつて徳ではない徳でなきゆゑ功徳なき行に天の報ひは恵まれ難い

二明日の献立二

【朝】大豆ふくめ煮

【晝】五目煎り豆腐・豆腐せんじんじん 推茸

【晩】旨煮にしんうま煮

とするのみにあらず天地宇宙の運行ごとく因果率を大則とする身を削り骨を削るところに犠牲があり奉仕があるそれを功徳といふのである、その功徳を自

ら收取せずその受け取り分を他に廻らし向けることを廻向とする取り込むのは人間の行爲であり、廻向は佛の行である、人生五十年已れを空と知り已れを謙虚にして他の心の中に生くる以外に永生の道はない、己れの名利のためにのみ生くる力者がその命終の後何等かあつて他の心に生き得ないのみか現實にその身心の末路すら多くは恨みを呑み涙と共に蕭條を極むるのほは則ち天の配劑による。

これに反して古來の祖師御開山と仰がるゝ宗教家が在世時の甚だ寂寞たるに似ずその滅後の聲譽いよ／＼覆郁爛漫として花祭を賞を結ぶに至るは身を削りたる代償なりと説明づけるのではない、その廻向が光り輝いてゐるのである功徳の種なくば廻向の叶はぬことたとへば商品なくば販賣が出来ぬと同義である功徳とは永生の種であり種ありて光りを放つのである名利の双をもちて功徳の種を刈り取りたる權勢原の死後に何として永生の花が咲かう。

大王をやめて十字架に上つたキリストの短い生涯にはその十字架上に遺した一滴の血潮こそ後世二千年に傳承さるべき大いなる種子であつた。

釋迦牟尼佛の詩いておかれた一化五十年の佛種こそは後世人類の靈に大いなる法の花を咲かせてゐる種子とは何ぞや身を焼き骨を削る功徳である施して求むるところなき謙虚なる生活態度である英雄傳は大臣宰相をエラしといふであらう何人かあつてそれを尊しといはんや且遺上人を斬らんとした執權職を時宗様と様附にするものはないが流されたる上人を時宗と同列に呼び捨てるものは一人もない。

間としての價値はエラさにあるのではなくして尊さにあるエラくなるために人は人を服し台閣に登り勳爵を帯びねばならぬが尊さは陋屋の一沙門も得られる筈だ私は尊さを體得し得ないまでも登ることなく従つて下ることなき垣底の如き途を歩まう登ることなきは榮耀なきも下ることなきは平安であり静寂である、末路の焉慘たるよりは私はむしろ終の莞爾たらんことを望む

外科

専門 X 科線光

上田外科病院

平町南町 電話一二九番

三河産業博覽會 昭利産業博覽會 金牌受賞

かまぼこ 製造

お惣菜用 さつま揚 吉原揚

平町一丁目 電話一四一番

中村齒科醫院 平町鍛冶町七

咽喉科専門

入院 應需 平町町七〇番地 山内醫院 醫學士 山内亨吉 電話六九一

金銀高價買入

根本時計店 平町二丁目(三幸堂跡) 電話六〇七番



玉屋洋品店 平町町通電話六五六番

江戸前料理 主人自慢の鳥料理 水タキ

會席膳一人前八十錢ヨリ... 出前迅早!

錦水 電話四五四番

呼び聲ばかりのインフレに絶望

▽平地方の商業界が 今後の動向を注目

昨秋以來爲替相場暴落、インフレ進行等に依つて平地方も所謂インフレ景氣の恩恵に浴し得るものと観測から商家は無理算段までして値上り商品の飛付買ひを行つたがインフレは呼び聲ばかりで一方向に其の本体を見せず是れに依つて醸し出された人氣も線香煙火に終らんとするの觀を呈するに至つた即ち中央では株式の暴落に相次ぐ重要商品市場の軟勢に依つて今は形勢觀望の姿である爲め此影響を受けて平町の商業界には再び暗雲が低迷して今後の動向に一縷の望みを托し其の成行を注目して居る

農村更生

講演會を開く……

本位田博士と南崎技師が講師
本縣社會事業協會では石城郡下農村の自力更正策を講ぜん爲め町村吏員、小學教員、其他町村長の推薦者を來る十五、六の兩日平町に招集し講演會を催す事にな

所得と純益の申告に注意を

平稅務署では本月十五日を期して第三種所得金額及び營業純益金額の申告をなさしめる事となつたので此が趣旨徹底の爲め來る十一日午後六時より同署樓上に平町を始め各町村納稅者を招き申告に關する講演會を開くと

湯本給水好績

石城郡湯本町上水道の給水戸數は現在二千六百廿九戸人員一萬二千四百八十二人に達

平町主要生産

醬油が最重位に 蒲鋒も仲々多い

平町役場で最近調査した昨年度に於ける市内醬油醸造高は千七百七十石此金額七萬八千圓で平町生産物中の最重位にあるが味噌醸造高は三萬六千二百圓で金額一萬四千五百六十圓に及んで居る

産業組合宣傳

來る六日を期して

石城産業組合部會では來る六日全國的に於ける産業組合記念日に際しては組合思想普及の爲め宣傳隊を組織してピラ及びポスターの配布及び講演會等を催すべく計畫中であるが四倉、大浦、草野、大野の四組合では當日自動車宣傳隊を組織して四ヶ村隅なく宣傳する等非常な力コブを入れて居る

奏任待遇

小學校長 郡下一名増す

石城郡に於ける第二回發表の奏任官待遇校長勿來小學校長折笠鬼子太郎氏の七等待遇と四倉小學校長菊地正一氏の八等待遇二名である

他校に比較し

合格率が多い

磐城高等女學校から本縣女子師範二部を受験した内左記七名が合格他校に比較して合格率が多いので校内舉げて大喜びである

平映畫界

平館 松竹現代劇若水絹子主演「蝕める春」松竹時代劇市川右太衛門 大江美智子主演「夜渡り鳥」日活現代劇夏川静江 市川春代 小杉勇主演「花の東京」
世界館 新興現代劇中野英治 高津慶子主演「天國突進」新興時代劇岡徳鷹 高木新平主演「又衛門浪花日記」新興時代劇阪東妻三郎 淡路千景子主演「春秋編笠ぶし」水谷八重子 大日方傳主演全發聲映畫「浪子」

平町豫算

委員會修正の通り可決確定

既報委員會明けの平町豫算本會議は本日午後一時より開かれたが委員會の報告に依ると原案卅二萬六千九百六十圓を審議の結果卅三萬九千六百四十一圓と修正されたが是れは小學校教員及

日二大竹千代(二四) 回死 亡
△材木町二八 當時横濱市
鶴見區菅澤町一四四 吉
田大祝氏(二九)埼玉縣南
埼玉郡太田村字古久喜安
田せき(二三)
△五丁目二〇 當時東京市
江戸川區小岩町四ノ一七
五九丹野進一郎(一七)
△月見町一九 鈴木安重
(七五)

鹽 豚
肉 蒲鋒
田町 三三三三屋

父政久儀永々病氣之處養生不相叶三月一日午後五時死去致候間此段御通知申上候
追而來ル四日午後一時自宅出棺長橋町性源寺ニ於テ佛式ニ依リ埋葬可仕候
昭和八年三月二日

男 吉田 鎮政
男 清水 廣政
親戚 清水 爲政
總代

貸切の御用命は!

獅子吼(四四九)ノ勢デ

眞先ニ……(マツサキ)
三九ニタクシーへ!!!

今朝平署員

一齊に出動

狩獵違反者檢舉

平警察署では三月一日から禁獵となつた雉子、山鳥外數種の狩獵違反取締の爲管内山の手を署員が本署の應援を得て今朝六時より一齊に出動違反者狩りに努めた

「今宵一夜」と……

左腕に刺青

物妻い女房家出

石城郡内郷村大字宮人見三吉の妻チヨ(三)は數日前二男誠次(三)を連れて家出したが同人は左腕に「今宵一夜」また右腕に「人見チヨ」

町議の小父さんに

御馳走をドツサリ

平第二小學校では家事實習として割烹に力を入れて居るが最近生徒達の腕前が非常に上つたので津田校長が御自慢旁々生徒達に町會議員の小父さん達にイツも忙しい中を町の爲めに働いてくれる尊い任務に

お禮の気持ちを持たせ本日正午作法室に町議一同を招いて丹精こめた
お料理の數々を御馳走したが町議達も大喜びで『イヤ是れはどうも……本職はだしだ』とお世辭たらたら舌鼓を打ち此の小さ

な者達の厚意に酬えてやらなければならぬと早速割烹道具一式を夫々自腹を切つて寄附する事を異議なく可決……とは何んと最近氣持の好い朗らかな話ではな

脅迫交りの押賣横行

平町に一時殺到した押賣行商人は最近嚴重な平署の取締りに縮つて今度は附近の町村廻りを始めたらしく殊に三人組の賣藥行商人が各

神谷産業青年團が

繩ない競技を試む

最高は十分間に

石城郡神谷村農會では既記の如く産業青年團を組織し同村小學校にて農家經濟の夜學を開講中の處昨日を以つて終了、同日午後一時より農事試験分場にて夜學生及び小學校高等科男女生徒の十分間繩ひ競技會を催したが成績左の如くである

二百餘圓持逃げ

石城郡小名濱町神明町居住人夫藤田五郎(三)は一日午後三時頃小名濱市場にて主人鈴木留之助より魚の賣上代二百餘圓を店へ持歸る様に命ぜられたのを奇貨として其儘行術を晦して了つたので鈴木より取押方の捜査願があつた

天から

酌婦降る

降らしたは暴れ者

難なく逮捕

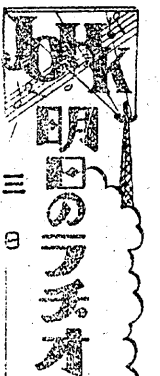
石城郡内郷村字竹ノ内居住山地甚藏(三)は二日午後四時頃同村綴飲食店瀆屋方で泥酔し相手の酌婦が癪に障ると突然二階から路上に突落して負傷せしめ更に暴れ廻つて室内を破壊し急報に依り駆付けた平署員に取押へられた

豚コレラ豫防運動

昨報石城郡下各町村の豚コレラ豫防に關し農林省秋山技師吉田防疫獸醫等を講師に招き講演及び映畫會を左記日割に行ふと

湯本道路

石城郡湯本町では匡救土木事業として去る廿七日より櫻木町地内道路の改修工事を工費千五百圓にて着手したが竣工は本月末日の豫定である



今夜も明日も北西の晴れ時々曇り

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間
童話劇「人形師の夢」東京放送童話劇協會
後六、二五 講演「壽府外交と聯盟會議」鷲澤與四
次
後七、三〇 講演「アジ

明日の部

六曲伊藤敦子 ジェリトス
後九、四〇 全國ニュース
氣象通報 番組預告

高峯博
後六、〇〇 子供の時間
童話「おひな祭」小笠原義雄
後七、三〇 講演「北陸の萬葉の古蹟に就て」第四高等學校教授鴻巣盛廣
後八、〇〇 義太夫「壺坂靈驗記」竹本綾千代 三味線竹本重八
後八、四〇 清元「雛の宵」清元美都枝
後九、〇〇 長唄「里廻四季」杆屋勘榮外

平職業紹介所報告

- 人を求める方
△豆腐賣子 四十才 尋卒
賣上の二割給(双葉郡某)
△雜夫 三十才 尋卒 給料面談(江名町某)
△女中 二十才以下 尋卒
月五六圓(好間村某)
△染物外交 三十六才 尋卒 給料面談(平町某)
● 回職を求める方
△事務員 三十三才 商業 給料面談(平町某)
△事務員 三十才 商業卒 給料面談(平町某)
△商店配達 二十才 高一 給料面談(内郷村某)
△女中 四十七才 無學 給料面談(平町某)

耳鼻咽喉科専門

大和田醫院

平町南町 電一〇七

赤羽根橋

【禁煙上演及映畫】

悟道軒 圓玉演
近藤 紫雲畫

第二白八十席 佐々木見山

有馬玄蕃頭は赤羽根橋の
袂で夜蕎麥賣の作らへた蕎
麥を食べた、空腹の折とて
願うまい

殿「今一椀所望致す」

二膳食べたやがて巾着か
ら金を出して

殿「供の者の食した其代金
と共にこれにて宜しいか」

と二歩金を二つ出して
殿「一椀十六文と聞き及ん
だがこれにてまだ不足か」

と云つた、そこは大名の
事十六文が十あればとて百
六十文で一兩とは比べもの
にならないがそれは知りま
せん其當時一兩そばを買ふ
者は無い、そばはびつくり
りして

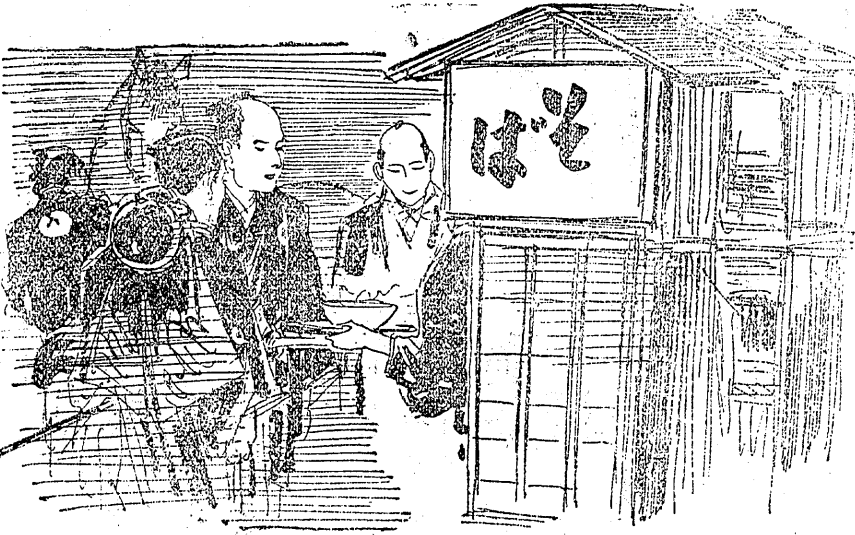
○「これではお釣が参りま
す然し私は夜そば賣の事で
一兩にお釣を出す程の用意
は御座いませぬ細かいので
拂つて頂きたいもので御座
います」

有馬侯これを聞いて考へ
て居たが

殿「其方の申す事は予はと
んと分らぬおつりが参りま
すと云ふたがおつりとは何
か」

問はれて附添の家が
家「一兩金にては餘りませ
ん」

其の餘りをお返し申すを商
人は釣と申します又かゝる
小商人の事でございまして
一兩金に對する餘りの錢を
差出す用は御座いませぬそ
ら歩くは」



殿「それにてわかつた予は
その他に貯へ居るは小判で
ある」
家「それでは手前より遣は
します、二朱金を一ツ渡し
て釣錢は宜しい」
○「それは有難うございま
す今夜は三島町の火事で金
杉橋に居ましたから大分商
もございまして此處で二朱
頂けば直に宅へ歸ります」
殿「其方が毎夜の如く風鈴
を鳴らしてそばと呼びなが
ら歩くは」

荷に付いてゐる風鈴の紐
を引きチンリン／＼と音を
立てそばういと長く引く
殿「ハ、妙な事を申すナそ
ばういはウイ／＼そのういと申
すはどういふ食物か」
○「これは食物ではござい
ません長く引きますからう
いと響きます」
殿「なる程さう／＼世渡り
は幸ものであるナ何時頃が
賣れゆきが宜いか」
○「夜鷹そばは冬でござい
ます、櫻が笑ふやうになり
ますとお汁粉を賣ります雁
が飛んで来て向腔を搔くと
白くなるやうな季節には又
そば屋に化けますまアなん
でござんす火事があります
と火事場に行つた者が食い
ますからよく賣れます、火
事はわたくしには福の神そ
の他は旗下邸に博奕が出来
てゐると賣れますよ先づ博
奕場に火事がわたくし共の
お得意でございませぬ」

殿「それは悪いものが得意
であるなイヤそばを食わし
た爲に暖にもなり又満ぶく
致したどれ戻るであらう」
と再び馬に乗つて其處を
去るそば屋は荷を擔いでそ
ばうイチリン／＼と風鈴の
音を邊りに散し有馬の長屋
下に沿いて三田の方に行く
玄蕃頭侯は邸に戻られたが
その翌日小姓の松崎采女を
呼んで

殿「昨夜赤羽根橋の袂にて
會うた夜そば賣は何れに住
んで居るか夫を尋ねて同道
致せ」
采「どういふ御用に御座い
ますか」

殿「此頃に来をいたす其節
予が夜そば賣となつて其の
人々に懇懇いたす左様いた
すにはそばの拵へ方を知ら
ねばならぬ依つて夜そば賣
を呼び寄せ其の方法を尋ね
るであらう」
之れを聞いて松崎采女が
殿様は妙な事をすると思つ
たが御無用になさいとも云
へない其處で此の晩邸を出
て赤羽根橋にてこのそば屋
の來るを待つて居たが今夜
は見えないそこで又翌晩も
此處に待つて居た折しも金
杉橋の方から風鈴の音が聞
えたがだん／＼近くなつた
さては夜そば賣が來たかと
その方に目をつける

印刷物の御用命
て總は命用御
印刷日每警常
番〇三六話電

門 專
婦 産
花 柳 病 科
人 科 科
◎入院隨意
井 坂 醫 院
平町田町 電話五五九番

御贈答に
記念品に
諸景品に
漆器を!!!
誠實勉強
親切第一
在庫豊富
是非御用命を
ドコヨリモ、ヨイシナチ、ドコヨリモ、ヤスクウ
ル、ヌリモノミセ
平町三丁目北裏(元郵便局裏通り)
各産漆器
専門卸小賣
漆器店
店員募集 十三才位 小 店員
三十才迄位 外 交員

お醬油は ヤマフル
醬油味 贈
たひら 正宗
鯉節 食料品
鹽 屋
山崎合名會社
福島縣平町(電話營業部二〇釀造工場)
明治生命警城代理店 山崎與三郎